

若越郷土研究

第69巻1号
318

2024年7月

南北朝・室町期の朝倉氏と安居氏 —安居郷・坂南本郷をめぐって—	河村 昭一 (1)
小浜藩儒・興田吉従の遍歴(上) —伴信友の「ともだち」(二)—	中島 嘉文 (19)
福井藩成箇帳にみる米納・銀納・その他について	中村 賢 (35)
八田木札をめぐって	池田 正男 (45)
福井県における郷土研究・郷土誌の動向 —令和五年度分—	本会事務局 (59)

久保智康「後陽成天皇と桃山時代の美術工芸」

〔後陽成天皇〕 宮帯出版社

熊澤恵里子「福沢諭吉と松平春嶽」〔福澤諭

吉年鑑〕五〇号) #

熊澤恵里子「民衆はなぜ篤胤の語りに魅せら

れたのか」〔現代思想〕五一巻一六号)

黒滝香奈「天保期の福井藩用水改革と地域社

会」〔歴史評論〕八八九号)

佐藤圭「織豊期城郭越前府中城の成立」〔越

前市史編纂だより〕一九号)

高岡萌「第二次高等学校令下の公立七年制高

等学校の設立」〔大学史研究〕三三二号) #

田中宣一「追悼論文 地域における伝承文化

総体の追跡」〔長野県民俗の会会報〕四六

号) #

角鹿尚計『評伝橋曙覧』ミネルヴァ書房

角鹿尚計「正学講話 橋本景岳書簡 安政六年

二月二十日村田氏寿宛」〔日本〕八七五号)

野尻泰弘「民衆運動からみる幕末社会」〔日

本近世史を見通す三〕吉川弘文館)

野尻泰弘「近世初期の山論と藩地域」〔明治

大学人文科学研究所紀要〕九一卷)

長谷川裕子「生き続ける惣国」探のかたち

〔深化する歴史学〕大月書店)

古川登「佐々牟志神社石塔群の調査」〔越前

町織田文化歴史館研究紀要〕九集)

堀井雅弘「新刊紹介 木越隆三編『加賀藩研

究を切り拓く二』」〔北陸史学〕七二号)

三ツ井崇「葛藤の中の綴字」〔Language

information text〕二〇巻) #

山田裕輝「親友」松平春嶽が見た山内容堂

〔高知県立高知城歴史博物館研究紀要〕六

号)

『家康徹底解説』文学通信 (塩谷菊美「三河

一向」揆虚像編)、竹間芳明「三河一向」

揆虚像編) #

『中近世日本海沿岸地域の史的展開』岩田書

院 (田中文敏「十八世紀將軍庶子の居所と

側役」、平野俊幸「越前森田家と加賀森田

家の出自と両家の役割)』

『福井県文書館研究紀要』二二二号 (田川雄一

「福井県文書館における学校連携」、長野栄

俊「福井藩の御奉行に関する基礎的研究」、

野尻泰弘「近世初期、支配違いの山論にお

ける乱闘事件」、柳沢美美子「越前大野藩

における種痘の展開)』

□投稿規定

投稿は未発表のもので、完成原稿とします。

縦書き三〇字×二三行×二段によるデータ入

稿をお願いします (希望者には様式ファイル

をメールで送付します。手書き原稿は業者に

入力を委託しますので、費用三、〇〇〇円を

別途(負担ください)。次号(二〇二五年一

月末刊行予定)の投稿締切は一〇月末です。

①論文：図・表・註等を含め、四〇〇字詰

原稿用紙五〇枚程度 (本誌一六ページ前

後)：二〇ページ超は不受理。

②研究ノート・紀行・史料紹介：原稿用紙

一〇〜三〇枚程度 (本誌四〜一〇ページ

前後)。簡単な史料紹介、伝承の報告、

史跡紀行、展評 (展示会報告) など、気

軽な内容での投稿をお待ちしています。

若越郷土研究 第六十九巻一号 (三二八号)

令和六年七月三十一日発行

発行所 福井県郷土誌懇談会

福井市下馬町五一一一

福井県立図書館内

電話 (〇七七六)三三二八八六〇

振替口座 〇〇七五〇一六一二三八〇

印刷所 創文堂印刷株式会社